

令和3年(ワ)18684号中央新幹線工事差止等請求事件

2022年(令和4年)1月17日

東京地方裁判所 民事第12部 御中

陳述書

東京都大田区田園調布3丁目37番18号

原告番号13

山梨幹子



私は原告の一人で、大田区田園調布に住む山梨幹子です。

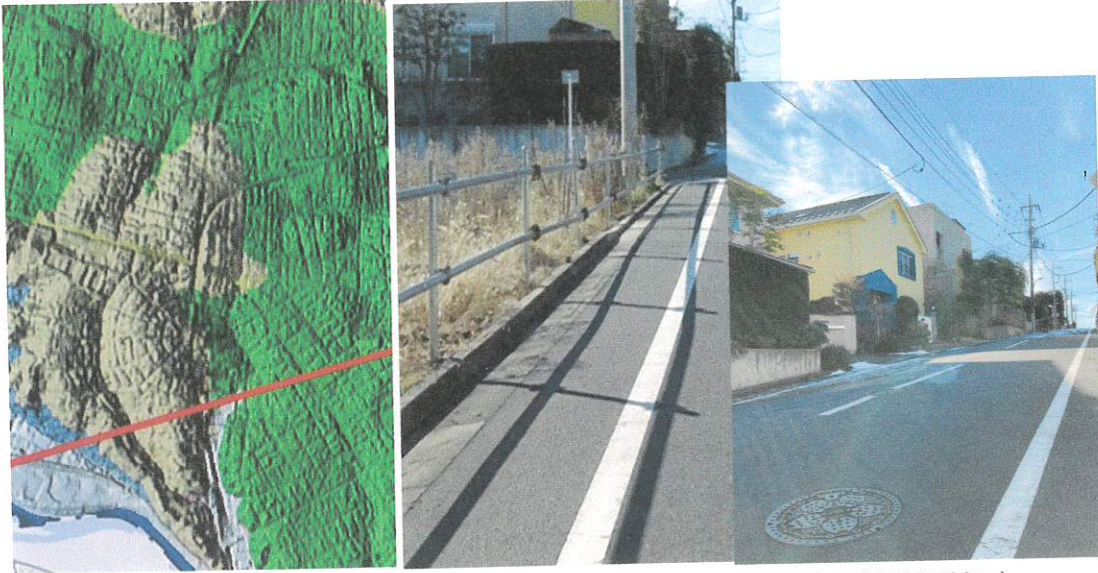
私は、1943年生まれで、織物など、家庭の手工芸(暮らしに必要なものはなるべく自分で手作り)を啓発する仕事、とりわけスウェーデンなど北欧の手工芸を日本に紹介する仕事を、50余年にわたり行ってきました。私の事業者名は「ヤマナシ ヘムスロイド」といいます。ヘムスロイドとは、スウェーデン語で「家庭の手工芸」という意味です(雑誌の記事を参照下さい)。

冷房病の私は、新幹線もエアコンもダメです。長年、港区青山でくらしてきましたが、窓を開けても涼しい風も無くなってしまったので、そのような生活に見切りをつけ、山、坂と緑の多い地域を何回もあれこれ探しました。

そうしたところ、2010年の夏、歴史ある分譲住宅遺産ともゆうべき田園調布に、終の住処をみつけました。現住居のあるところでした。ようやく、住んで愛せる土地を見つけたと喜びました。川と丘陵地が醸し出す自然の恩恵に溢れるエリア、多摩川から吹いてくる涼しい風、樹木の中を潜ってくる夏風に、都心の、いつも追われているようなせせこましさを忘れ、深呼吸したものです。井戸があったのがさらに魅力的でした。

2010年12月、私は木造2階建て建物の建築にとりかかりました。すると、すぐに建設工務店から、土壌が脆弱であるとの指摘を受けました。こ

のあたりは、大田区の地盤調査図を見ますと、N値という、土の硬さや締め具合を表す値が、地下10mまで、10未満の状態が続いています。さらに20mまで行かないとN値が50に達しない状態です。それが埋れた谷であると言う人がいます。



山梨邸前の東西に延びる坂（東側が低い）

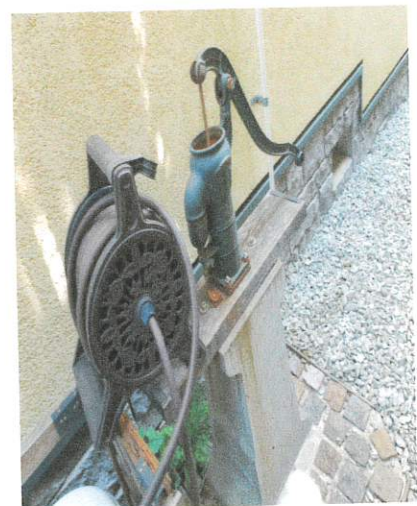
JR 東海も「東京都区部における事業区域周辺の地盤急変部の可能性は、多摩川左岸付近で横断する可能性のある埋没谷と国分寺崖線の2箇所であると推定した」と述べています（乙第5号証「別紙書類第3号」「事業区が大深度であることを証する書類」7枚目2行目）。

また、国立研究開発法人産業技術総合研究所の「地質調査総合センター」は、2021年に「都市域の地質地盤図」を公表しました（左上）。

https://gbank.gsj.jp/urbangeol/ja/map_tokyo/index.html >



南側に急峻な坂（南側が低い） 東側が崖状（東横線線路）



山梨邸内の井戸

そのため、土地改良をしてから建物を建てることになりました。想定外の出費となりましたが、多摩川沿いで、東側には大きな谷もあるのですから、(前ページの坂や崖の写真参照) 地盤の安全対策をしておくことは地震時にも役立つと考え、強固な地盤を造りました。父から、住むところの地盤は大切だと教わってきたこともあります。

2011年3月11日の大地震の時には、屋根が上がっていて、建物は無事に予定通り完成しました。引っ越してきたのは、その年の7月のことです。

井戸も手押しポンプ型を苦労して探し、取り付け(前ページの写真参照)、これでトイレと庭の水遣りは賄えています。水道代は、青山のときには月1万円ほどしたものが、井戸の使えるここでは月2000円ぐらいです。

仕事上、7部屋ありますが、室外機は1台です。私はエアコンを使用しませんので、建物の設計は、なるべく夏型とし、風が抜け、昼の明かりは天窗にしました。わが家にはテレビも、炊飯器も、電子レンジもありません。そのため、月3000円ぐらいの電気代で快適に暮らしています。

都会にいて、川と変化に富む丘陵地でのくらしは、私が求めていた究極の選択です。地盤の良い都心の青山からの移転でしたから、今でも地盤への不安はあります。でも、緑と良好な住宅環境が維持されている歴史ある住宅地は、全国広し言えど、残っているのは田園調布だけです。100年前に、田園都市構想を打ち上げた渋沢栄一、小林一三たちによって開発され、当時の欧米民主社会の田園住宅開発に学び、計画を維持発展させた先人たちの努力と熱情は大変なものです。そのお陰で、私初め住人たちは、今日でも、静かで穏やかな日々の暮らしを喜び、後世まで残すために努力しています。

そして降って沸いたのがリニア新幹線計画です。10年以上前から、山梨県の実験線のニュースが新聞に載るようになり、目に止まりましたが、どんなことになるのか、実際どこをとおるのか、よくわかりませんでした。田園調布をとおるらしいといわれても、ぴんときませんでしたし、もしそうなら、住民説明会もあるはずとタカを括っていたのです。

ところが、4年前のことです。中央新幹線(リニアとは書かれていなかった)の説明会に、下丸子の大田区民プラザに、近所の方を誘って出向きました。JR 東海が工事をする計画を一方的に解説したあと、質疑応答がありました。的確な回答もできず、とても住民の納得できる内容ではありませんでした。次回までに調べてくる約束でしたが、以後、なにも連絡が

ありません。誠意のない JR 東海の態度は、「自分の利益第一」の企業に成り下がったとしても、少なくとも、「先進国」では、住民無視ではなにも進まない世の中になっていることをご存知ないのが不思議です。私はスウェーデンでくらしただけであり、社会のあり方を学ぶ機会がたくさんありました。スウェーデンでは、JR 東海のような住民無視の進め方では到底とおられません。これだけ大規模な事業を、住民との合意なしに行うことなど、考えられません。

自分の愛する家の下に、トンネルの巨大な空洞ができることに、私は物凄く不安と恐怖をすでに感じています。そして、予想されている大地震からの影響、外環道の陥没、調布市民が経験した、凄まじい振動と騒音を聞くたびに、恐れ慄きます。住民一人一人への納得いく説明と合意なしに工事を進めることは、法人として許されることではありません。

自然を破壊し、田園調布の歴史文化を破滅させ、住民に莫大な損失を与えるリニア工事を強行することには、何の意味も価値もありません。今すぐにやめてください。私の、終の棲家としての人生の最後の最後の夢が、めちやくちやくに踏みにじられてしまいます。一人一人の人生を大事にするのが、先進国としてのつとめではないでしょうか。

以上

YAMANASHI HEMSLÖJD



1971 50 2021

ヤマナシヘムスロイド 50周年記念展

自然との共生・紋様の美



10月4日~16日 表参道ギャラリー
東京都渋谷区神宮前4-3-16

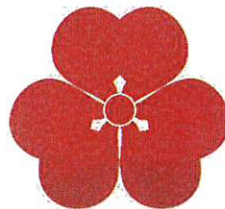
10月4日~30日 青山YHIビル
東京都港区北青山1-5-15

YAMANASHI HEMSLÖJD

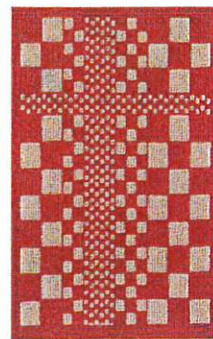
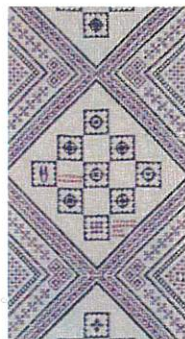
表参道会場では、テーマ「自然との共生」の意味を含めて、これからの手仕事はどうなるのか、暮らしのデザインとは何かを求めてサスティナブルな手工芸が国内外から140点余り出品いたします。

青山本部では、50年の歩みを70年代から各年代毎に写真と作品で振り返り、山梨幹子所蔵の貴重な写真資料の中からよりすぐりの写真をお見せいたします。

1969-70 Mikiko & Ylva



1967 Ylva



Omotesando

《会期》 2021. 10/4 (月) - 16 (土)

《会場》東京都渋谷区神宮前4-3-16 11:00-17:00 無休
(表参道駅 A2出口 徒歩約3分)

◆約140名参加者(刺繍、織、ニット)紋をアレンジしたオリジナル作品他

◆海外作家9名最新作品(刺繍、ニット、ビーズ、アップリケ)

作家名: ハイジ・ジェンキンス/カーリン・カーンランド/ニーナ&カタリーナ/ティヌ・ヴェセル

ドルテ・エリクセン/バス・ラッセル/アンナ・カーリン/マリア・ホルマー・ダールグレン/ウラ・ネオガード

Aoyama

《会期》 2021. 10/4 (月) - 30 (土)

《会場》東京都港区北青山1-5-15 YHIビル 11:00-17:00 16日まで無休

(青山一丁目駅1番出口、外苑前駅4a出口 徒歩約5分)

◆講師作品(刺繍、織、ニット)

講師名: 山梨幹子、岩藤富美子、崎村由紀、白川道代、土谷正子、鳥居洋子、西澤文字、東野充子
水嶋恭子、宮川和子、村手暢子、森裕美、安はるか、山住良子

◆50年の歴史と作品、写真展示 / 会期中毎週土曜日14:00~ 山梨幹子トークイベント(30分、要予約)

◆50周年記念展限定ワークショップ開催 ♡ 楽しいひと時を共有してください ♡

《ワークショップ内容》

・トムテ人形 ・ソロソムのドイリー ・アネモネのドイリー ・指ナシモン ・毛糸のリード織
・大型で織る和紙のマット ・小花と十字のピンクッション ・ホワイトワークの八角ミニクッション



《お問合せ》 NPO法人ヤマナシヘムスロイド

107-0061 東京都港区北青山1-5-15 YHIビル Tel 03-3470-3119 Fax 03-3470-2669

※ ご来場のお客様へは手指消毒とマスク着用のご協力をお願い致します。
換気の良い会場で楽しんで頂けるよう感染対策に努めます。

Message

ヤマナシヘムスロイド 50周年を迎えて

コロナ禍の中、皆様におかれましては不安と身の置きどころのないような不安定な日々を過ごされておられることでしょう。

私も同じです。でも嘆いても、政府の無策に怒っても、何も解決しません。

このような状況のなか、50周年記念展は十分な対策を考えたうえで、入場制限をしながら、皆様に安心して楽しんでいただけるように実施いたします。

50年という月日を振り返れば、あっという間のようにもあり、大小様々な展示会、啓蒙のための出版数は50冊を超えた長い年月でありました。

これらの協働作業のために、多くの方々のご理解とご協力をいただきこそ、実現してきました。そのたびに多くの新しい展開があり、新しいファンも得て、今日があることを実感し、心から御礼を申し上げます。長年のご支援とご愛顧、本当にありがとうございました。

次の50年のために、これまであつめた資料や書籍、作品の数々を暮しに役立つコンセプトでデジタル化し、教育に役立つかたちで公開するため、緑に囲まれた自由ヶ丘・奥沢の地にアーカイブ（資料室）を創設することにいたしました。

後世に残せる、伝統的かつ革新的な内容にするため、私の最後の仕事として頑張りたいと思います。

末筆になりましたが、皆様のご理解とご厚情に感謝申し上げるとともに、初心を忘れず、これからも精進する所存のヤマナシヘムスロイドへの応援、引き続きよろしくご依頼申し上げます。

2021年9月吉日

山梨幹子

NPO法人北欧伝統手工芸普及会ヤマナシヘムスロイド
有限会社ヤマナシ・ヘムスロイド・インターナショナル



山梨幹子

ミセス

2

February 2021

No.793

2021年1月27日発行 発行所
（毎月7日発行・発売）
セブン・マガジン・サービス

〈ファッション〉

春一番の バッグと靴

トレンチコートをもっとすてきに

連載「時代を創る男たち」

菅田将暉

〈ヘルス〉

耳の話

〈フード&ヘルス〉

心と体のデトックス

SNSで知っておきたいこと35

1. チョコレート色の時間

2. 気になる
チョコレート 2021

3. 話題のチョコレートショップ

4. カカオに魅せられた人々

〈創刊60周年企画〉

『ミセス』と 手仕事の 達人たち

〈とじ込み付録〉

刺繍の刺し方と 図案集

〈特集〉チョコレート 好き

5. チョコレートの歴史

6. 世界で出会ったカカオの話

7. チョコレートができるまで

8. チョコレート・エトセトラ

9. 手作りしたいお菓子

山梨幹子さん(ヤマナシヘムスロイド主宰)

暮しを彩る

北欧の手工芸



生き生きとした庭をクロスステッチで
連載(手仕事のある風景)で、1996年『ミセス』4月号でご紹介した
クロスステッチの作品。様々なハーブを植物図鑑のように楽しくデザイン。



まだまだ現役!
リビングのラグを制作中
一般向けではいちばん大きなサイズだという織機は、全身で操作するため、それだけで重労働。「元気で織ってられるのは、とても幸せなことね」と山梨さん。現在制作中のラグは、グレーとピンクの糸が交差するモダンなデザイン。ダイニングテーブル下に敷く予定。

山梨幹子さんのアトリエには大きな織機があります。自ら織り上げる布こそが山梨さんの原点。五〇年前、手仕事のあるスウェーデンの暮しが、本当の豊かさを教えてくれました。
撮影・安田如水(本誌)
制作協力・NPO法人北欧伝統手工芸普及会
ヤマナシヘムスロイド

「北欧では自分らしいインテリアに美しい布がかかっている。手仕事で暮しに息づいていました。人間的でとても豊かに感じたわ」

苔の庭をイメージ
機能美を備えた
暮しの布

苔の庭をイメージした市松模様のカーペットは、心浮き立つ黄緑と白の組合せ。ふっくらと厚みがあって足ざわりも優しい。「リップスマット」という二重織技法で、細い綿や麻の残り糸を主に制作。





「テーマは再生。これからの手仕事はどうあるべきかを伝えたい」

「家は住みながら育っていきます。だから家づくりは生きていくかぎり一生続く。でも楽しいわよね。次は階段のカーペットを織るのが目標です」二〇一三年「ミセス」一月号のインタビューで、こう締めくくった山梨幹子さん。そして今年、念願のカーペット（前ページ）がようやく織り上がりました。

ヘムスロイドとはスウェーデン語で「手工芸」を意味する言葉。山梨さんは、北欧の手工芸を日本に紹介し続け、今年で五〇年の節目を迎えました。「受け継がれた技法、いい素材、美しいデザイン。日本で本物を見る場所を作ったかった」その始まりは、一四歳の時に始めたスウェーデン人のイルバさんとの文通から。同年年だった二人の少女は、その後大人になるまで文通を続け、友情を育んでいきました。「彼女はテキスタイルの先生になり、きれいな帽子や織物を送ってくれました。一九六七年に彼女に会いに行って、人生が大きく変わったの」イルバさんの同僚宅に招かれた山梨さんは、スウェーデンの暮しに衝撃を受けたそう。



歴史を刻む刺繍のサンプルで織りや刺繍のサンプルから仕立てたピンクッション。

「自分らしいインテリアに美しい布がかかっている、手仕事暮らしに息づいていました。庭にはプールもあったわ。女性は働きながら、自分の時間も大切にしていた。人間的でとても豊かに感じました」人々の交流があつて、住む人も訪れる人も楽しい生き方、暮らし方……。北欧の暮しにすっかり魅了されたのです。大量消費の時代、今は簡単な手仕事ばかりがもてはやされていて、若い人たちは質のよさというものがわからなくなってきました、と山梨さん。「暮しの中にある手工芸は文化なんです。子どもの時から学べば伝統が生きる。そのためには教育が大切であり、政治が支えないといけない。これは大きな課題です」

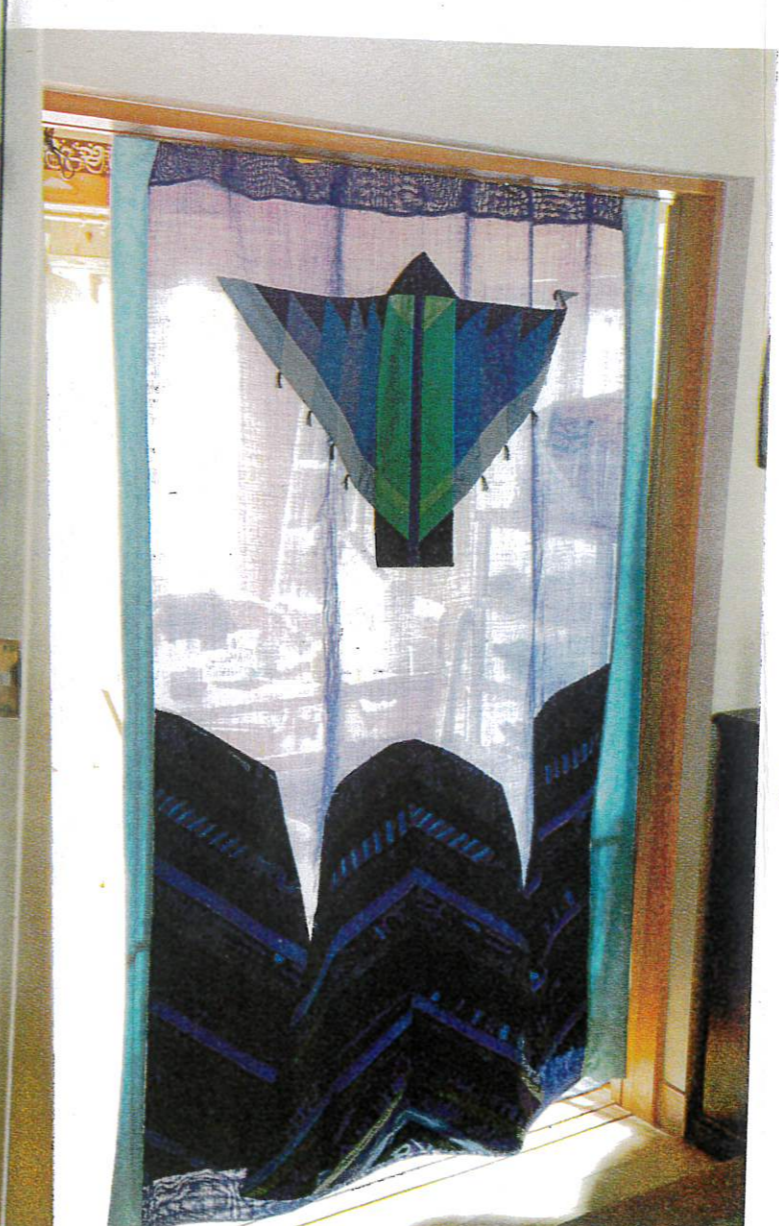
現在、山梨さんは五〇周年を記念した展示会に向けて、作品作りで情熱をかけています。テーマは再生。これまでストックしていた材料はもちろん、昔作った作品や自分のスカート、セーターをほどこいたり、書き損じた書道の紙を織りに活用するなど、わくわくするような挑戦です。「私が育った六〇年代までは、まだ小規模生産の品質のいい国産品や輸入品があちこちに売られていました。伝統的に自然素材が使われていたの。いい素材は蘇らせることができるのよ」お披露目の場所は、山梨さんの自宅を開放するというスペシャルプラン。「これからの手仕事はどうあるべきか」山梨さんからの大きな大きなメッセージです。

手入れをしながら四季折々に楽しむクッション

織りや刺繍……これまでに作ったクッションは、色あせることなく日々の暮らしを彩る。手前と奥は、ウィリアム・モリスの花をテーマに、1998年「ミセス」5月号で制作。

赤と白のキッチンにばらをかたどったラグを

システムキッチンの幅に合わせて織ったラグ。愛らしい模様の名前はローゼンゴン（ばらの道）。汚れやすいごんるやシンク下には、おそろいの小さなマットを重ねて、すぐ洗えるような工夫を。



「ヤマナシ ヘムスロイド」
11時～16時。日曜休み。
東京都港区北青山1の5の15
☎03-3470-3119 <http://yhi1971.org/>
※展覧会「自然との共生（布と糸の再生）」は5～6月ごろ開催予定。



いい材料、いい素材だから蘇るリメイクの楽しさ

右、中は、1960年代に着ていた二つのコートを組み合わせてクッションに。表は黒の毛皮にピンクのウールをはぎ合わせてチュールリップの刺繍を。裏面はポケット部分を利用して手が入る楽しい仕掛け。左は、'60年代に着ていたパッチワークのロングスカートをパーティションに。麻布をキャンバスに、青空に映える山脈とカイトを表現。

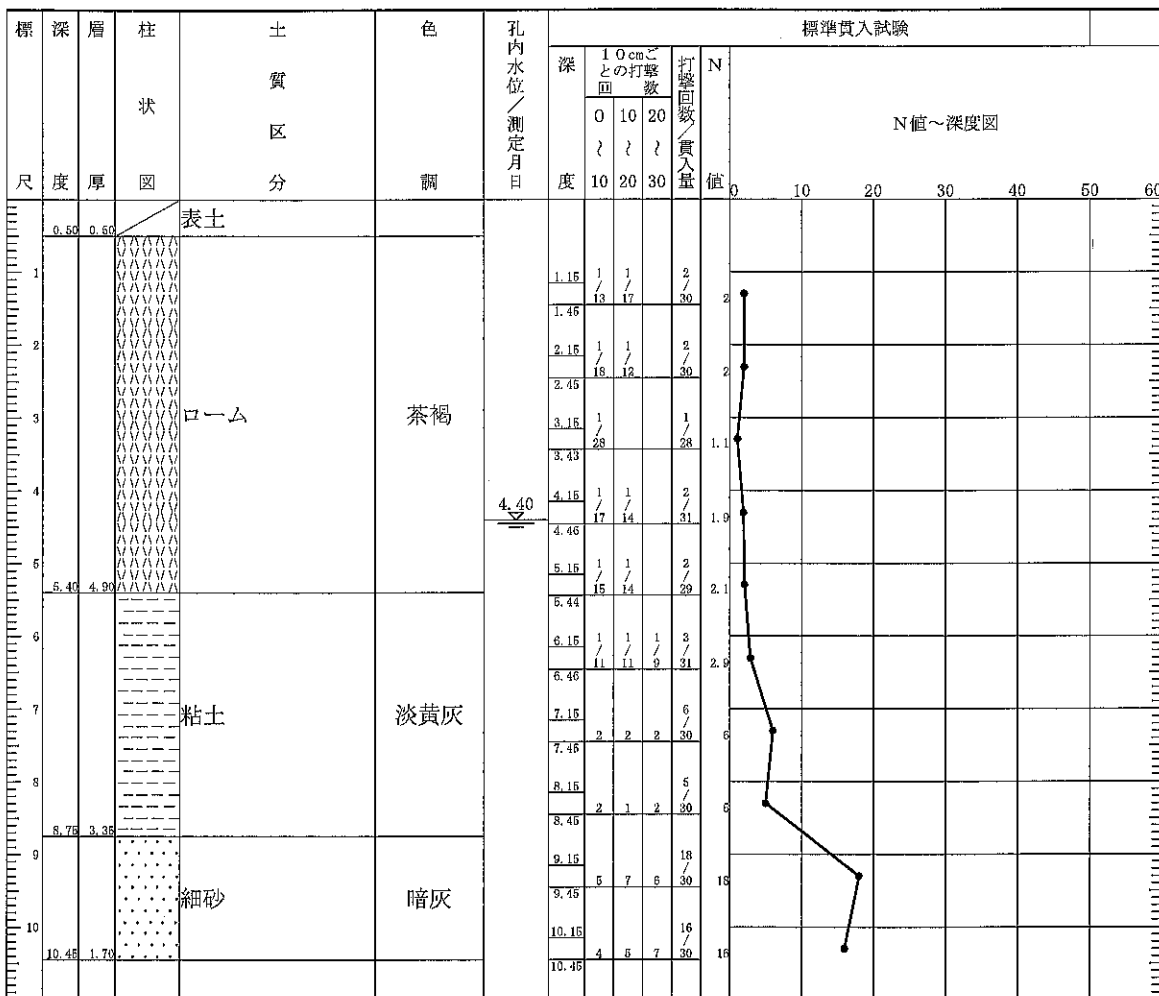
大田区地盤資料

整理番号： 018-058

調査年月：昭和 62 年 9 月

住 所：大田区田園調布三丁目37番付近

※この資料は区内で建築する際、地盤の状況を確認するための参考資料です。
位置情報については、おおよその位置を示したものとなります。



大田区地盤資料

整理番号： 018-098

調査年月：平成 16 年 11 月

住 所：大田区田園調布三丁目37番付近

※この資料は区内で建築する際、地盤の状況を確認するための参考資料です。
位置情報については、おおよその位置を示したものとなります。

